

RESASを活用していますか？

皆さんご存じの通り、AIやChatGPTなどの技術が急速に進化し、文書作成は誰でもできる時代になりつつあります。しかし、その元になる“根拠”や“リアルな地域データ”は、誰でも作れるものではありません。そこで重要なのが、「地域の今と未来を、客観的な数字で捉える力」だと思います。その力を誰もが簡単に使える形で支えてくれるのが、**RESAS（地域経済分析システム）**です。

今回は3月に新たな機能が追加され、補助金の計画書作成において活用できであろう、RESASについて紹介していきます。

○RESAS（地域経済分析システム）とは？

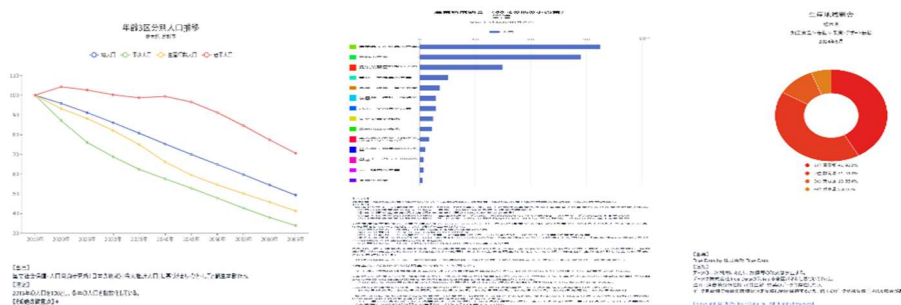
地域の人口・産業・企業・観光などに関する統計データを、グラフや地図でわかりやすく表示できる、政府提供(内閣官房と経済産業省)の**無料分析ツール**です。

○主な機能やデータカテゴリーは？

人口マップ（人口増減、将来人口推計など）、産業構造マップ、観光マップ（国内観光・インバウンド消費分析など）、マーケティングマップ（生活用品消費分析、生産・消費分析など）など

○RESAS でどんなことが出来る？

- ① 地域の人口構造や将来推計がわかる
→例：新たに介護支援事業を考えているけど、シニア層の推移は？
- ② 地域産業の構造・雇用状況を分析できる
→例：新店舗出店するのに、同業種はどれくらい地域にいるのか？
- ③ 観光客や人の流れを把握できる
→例：観光地のPRをしたいけど、来訪者はどこから来ているのか？
- ④ 図やグラフで“資料映え”するデータがすぐ出せる
→下記のように折れ線グラフや棒グラフ、円グラフなど様々



RESASは、補助金申請に必要な根拠資料の作成において非常に有効なツールです。誰もが簡単に使えるこの分析ツールを活用し、「地域の今」と「未来」を数字で語れるようになれば、補助金の採択率も一段と高まるはずです。

また補助金申請での活用だけでなく、新規出店などを検討する際の市場調査としても、便利な分析ツールになるはずです。

まずは実際に触ってみるところから始めてみては、いかがでしょうか。